

八溝ししまる（栃木県）

八溝ししまるの取り組み～福島第一原発事故を乗り越えて～

2017/10/13

八溝ししまる

町営イノシシ加工施設（八溝ししまる）は、2009年4月に栃木県内初のイノシシ肉加工施設として那珂川町内に開設した。施設面積は87.77㎡で建設費（設備費を含む）は3,765万円。近隣の市町村からも受け入れ、2010年度には約600万円の売上げとなった。

福島第一原発事故

稼働して2年目の2011年3月に発生した東日本大震災による福島第一原発事故により大量の放射性物質が屋外に放出された。今でも、栃木県、茨城県、埼玉県、千葉県では全頭検査が義務づけられ、イノシシやシカの利活用の大きな阻害要因となっている。



事故後の対応について詳しく記した「イノシシ被害対策の進め方」（2013年、対策手法確立協議会発行）の記事の一部を紹介する。

東京電力福島第一原子力発電所事故が起こり、大量の放射性物質が屋外に放出された。野生動物は環境からの外部被曝と摂食などによる内部被曝を受けることになり、日本の主要な狩猟動物であるイノシシへの放射性物質の影響が心配されていた。実際に影響が確認されて問題化したのは、震災後、約5ヵ月経った8月19日のことで（表2-6-7）、宮城県庁が猟友会からの情報提供として、8月7日に県内で捕獲されたイノシシの肉から2200Bq（ベクレル）/kgの放射性セシウムが検出されたことを公表したことによる。この値は当時の食肉の暫定規制値（500Bq/kg）の4倍を超える高いものであった。その後、福島県、栃木県や茨城県でも、6～8月に捕獲されたイノシシで同様の暫定規制値を超える放射性セシウムが検出された。食肉の暫定規制値を超えるイノシシ肉が各地で見つかったことにより、原子力災害対策本部長（内閣総理大臣）は、原子力災害における食品管理として、原子力災害対策特別措置法第20条第3項の規定によって、イノシシ肉の出荷制限または摂取制限を指示することになる。これらの制限は、「当分の間、出荷（または摂食）を差し控えるよう、関係自治体の長、関係事業者及び住民等に要請する」もので、2011年度（H23）では、摂取制限が福島県の一部地域に、出荷制限が福島県の一部地域、茨城県と栃木県の全域に出された。また、2012年度（H24）に入ると、新基準値100Bq/kgの施行により、イノシシ肉の出荷制限は宮城県、群馬県、千葉県に広がった（2012年（H24）12月末現在）。

復活

関東の多くの食肉処理施設で福島第一原発事故の影響を引きずっている。群馬県では未だに食肉処理施設が休止したままである。千葉県内では、イノシシの捕獲頭数が年々増えているが、全頭検査による人的な制約により食肉処理施設での解体処理頭数は伸び悩んでいる。

そうした中、8月30日付けの毎日新聞に次のような記事が掲載された。

10年度は約600万円を売り上げたが、11年の福島第1原発事故で状況は一変。売り上げは半分に減り、放射性物質濃度が基準値を超え、出荷できないことも少なくなかった。しかし、16年度は700万円と震災以前の売り上げを上回り、今年度はすべての肉を測定した上で、基準値超えは一度も出ていない。

みごとに震災前の水準に戻ったのである。売上高は決して多くはないが、苦境から脱した食肉処理施設の成功例と言えるだろう。

現在の八溝ししまる

食肉処理施設には、新たな冷凍庫が設置されていた。捕獲したイノシシが順調に食肉処理施設に搬入され、食肉利用が進んでいることを伺わせる。

道の駅ばとうで、イノシシ肉が売られ、レストランでイノシシ肉を使ったメニューが販売されていた。



一刻も早い解除を!

下表のように、那珂川町や千葉県大多喜町に搬入されたイノシシから検出される放射性セシウム

は基準値を大きく下回っており、大多喜町に至っては不検出の個体が多くなっている。

行政職員が捕獲現場まで出向いたり、解体処理に立ち会ったり、検体を検査機関に運ぶなど、非常に手間がかかる作業が続いている。出荷制限が解除されることにより、こうした作業がなくなり、一方で食肉利用が促進されると考えられる。万-のために、100頭に1頭ぐらいの抽出検査体制で十分ではなかろうか。

那珂川町イノシシ肉加工施設のイノシシ肉の放射性物質検査結果

個体番号	捕獲年月日	捕獲場所	検査年月日	放射性Cs結果(Bq/kg)	Cs134		Cs137		出荷適合	検査機関	備考
					測定値(Bq/kg)	測定下限値(Bq/kg)	測定値(Bq/kg)	測定下限値(Bq/kg)			
H29-037	H29.6.6	那珂川町	H29.6.13	31	測定下限値未滿	6.7	31.4	6.1	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-038	H29.6.8	茂木町	H29.6.13	17	測定下限値未滿	6.8	17.4	6.1	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-039	H29.6.12	那珂川町	H29.6.13	28	測定下限値未滿	6.9	28.3	6.3	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-040	H29.6.12	那珂川町	H29.6.13	42	8.9	7.0	33.1	6.2	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-041	H29.6.12	益子町	H29.6.13	11	測定下限値未滿	6.8	11.1	6.2	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-042	H29.6.12	茂木町	H29.6.13	29	10.0	6.9	18.8	6.1	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-043	H29.6.13	那珂川町	H29.6.20	24	測定下限値未滿	6.8	24.1	6.1	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-044	H29.6.19	那珂川町	H29.6.20	9.1	測定下限値未滿	6.7	9.1	6.1	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-045	H29.6.20	益子町	H29.6.27	14	測定下限値未滿	6.9	14.1	6.1	適合	塩谷南那須農業振興事務所	
H29-046	H29.6.21	益子町	H29.6.27	測定下限値未滿	測定下限値未滿	6.5	測定下限値未滿	5.9	適合	塩谷南那須農業振興事務所	

大多喜町都市農村交流施設（大多喜町）

単位：ベクレル/kg

個体番号	公表日	捕獲場所	捕獲日	検査日	検査機関	検査法	放射性セシウム134	放射性セシウム137	放射性セシウム合計	出荷適合	備考
大た29-40	平成29年8月17日	大多喜町	H29.8.7	H29.8.9	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-39	平成29年8月17日	大多喜町	H29.8.4	H29.8.9	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-38	平成29年8月17日	大多喜町	H29.8.4	H29.8.9	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-37	平成29年8月17日	大多喜町	H29.8.3	H29.8.9	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-36	平成29年8月17日	大多喜町	H29.8.3	H29.8.9	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-35	平成29年8月17日	大多喜町	H29.8.2	H29.8.9	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-34	平成29年8月17日	大多喜町	H29.7.29	H29.8.4	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-33	平成29年8月17日	大多喜町	H29.7.28	H29.8.4	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-32	平成29年8月17日	大多喜町	H29.7.28	H29.8.4	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-31	平成29年8月17日	大多喜町	H29.7.27	H29.8.4	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	
大た29-30	平成29年8月3日	大多喜町	H29.7.27	H29.8.1	大多喜町	NaI	-	-	検出せず(15未滿)	適合	